2022. 1. 31

Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動

一面に広がる落 その下はどうなっているのか



落ち葉を踏みながら歩くと、カサカサ と軽い音がして、柔らかい絨毯の上を歩 いているような楽しい気分になります。 でも、それを眺めているだけでは何とも 殺風景。夏場にはあんなに茂っていた野 草はどこに行ってしまったの? 観察者 の中には「何にも生えていないので観察 するものがない!つまらない」と言い出 す人がいます。

そこで、腰を下ろして、この落ち葉を 払いのけてみました。すると、そこに は、青々と草の葉が広がっていました。

(↓写真の葉はカロライナアオイゴケ)

落ち葉の絨毯の役割

真冬でも天気が良い日は日 光が直接地表に降り注いで地 面を温めます。しかし、朝に なると上空で冷やされた冷気 が地上に降りてきて霜柱が立 つほどに地表を冷やします。 でも、落葉樹の林では、木の 枝が冷気の降下を和らげ、さ らにこの落ち葉が地面が凍っ てしまうのを防いでいて、地 中は案外温かいのです。

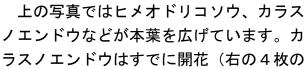
落ち葉は暖かい毛布の役割 をしているわけです。



一般の街路では落ち葉をきれいに「清掃」してしまうのが普通ですが、赤塚公園の武蔵野台地 崖線の林では落ち葉を完全に掃きとることはしていません。その理由がここにあるのです。観察 したらまた落ち葉をかけておきます。

日当たりの良いところでは、落ち葉を押しのけて野草が伸びています













1枚目)、ウシハコベ、オオイヌノフグリ、ミチタネツケバナなども花を咲かせていました。

→密にならないように気を付けながら観察・記録活動を行っています





ニリンソウシーズンに向けての林の整備↑

1/31 には大門自生地で、刈り取らない植物に付けたマーキングを外す作業も行いました。右の2枚の写真はオオハナワラビに付けたマーキングとその取り外し後。

この日はまた、大門自生地のロープで囲んだ生物多様 性保護エリアで、サービスセンタースタッフが枯草の整 理作業を行いました。



- * 1~2月のモニタリングは、2/1、2/14、2/21 9:00 ため池公園スタート
- *ニリンソウ自生地保護活動 ニリンソウ月間前の手入れ 2/20 10:00 大門観察台集合

参加大歓迎 飛び入り OK 問合せ:赤塚公園サービスセンター 03-3938-5715

今年のニリンソウ月間は3/19(日)~4/17(日)

ただいまポスター・千ラシの準備中!